

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	証券取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成18年2月22日
【事業年度】	第16期（自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日）
【会社名】	スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社
【英訳名】	SPARX Asset Management Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 阿部 修平
【本店の所在の場所】	東京都品川区大崎一丁目11番2号ゲートシティ大崎
【電話番号】	(03) 5435-8200 (代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 総務経理部長 小須田 建三
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区大崎一丁目11番2号ゲートシティ大崎
【電話番号】	(03) 5435-8200 (代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 総務経理部長 小須田 建三
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町1丁目5番8号)

## 1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成17年6月20日に提出いたしました第16期（自平成16年4月1日 至平成17年3月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

## 2【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第2 事業の状況

##### 2 営業の状況

##### (2) 運用資産残高の状況

##### ⑤ 当事業年度の成功報酬付ファンドの残高及び比率の推移

#### 4 事業等のリスク

##### (3) 運用実績が業績等に与える影響及び過去の運用実績が将来を示すものではないことについて

#### 7 財政状態及び経営成績の分析

##### (1) 当連結会計年度の経営成績の分析

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_を付して表示しております。

## 第一部【企業情報】

### 第2【事業の状況】

#### 2【営業の状況】

##### (2) 運用資産残高の状況

##### ⑤ 当事業年度の成功報酬付ファンドの残高及び比率の推移

(訂正前)

成功報酬の有無		平成16年6月	平成16年9月	平成16年12月	平成17年3月
成功報酬あり	残高(億円)	4,216	4,224	4,477	<u>4,913</u>
	比率(%)	55.8	57.9	58.3	<u>57.5</u>
成功報酬なし	残高(億円)	3,344	3,076	3,206	<u>3,629</u>
	比率(%)	44.2	42.1	41.7	<u>42.5</u>
合計	残高(億円)	7,560	7,301	7,684	8,542
	比率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0

(注) <略>

(訂正後)

成功報酬の有無		平成16年6月	平成16年9月	平成16年12月	平成17年3月
成功報酬あり	残高(億円)	4,216	4,224	4,477	<u>4,694</u>
	比率(%)	55.8	57.9	58.3	<u>55.0</u>
成功報酬なし	残高(億円)	3,344	3,076	3,206	<u>3,848</u>
	比率(%)	44.2	42.1	41.7	<u>45.0</u>
合計	残高(億円)	7,560	7,301	7,684	8,542
	比率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0

(注) <略>

## 4【事業等のリスク】

(3) 運用実績が業績等に与える影響及び過去の運用実績が将来を示すものではないことについて

(訂正前)

<前略>

また、当社グループでは、可能な限り多くの投資顧問契約及び投資信託委託契約に成功報酬を付帯することで収益性の向上を図っておりますが、運用資産残高全体に占める成功報酬の付帯比率は、平成15年3月期の72.4%から平成16年3月期58.5%、平成17年3月期57.5%に下落しております。これは、主として株式一般投資戦略、中小型投資戦略などの成功報酬を付帯しない報酬体系が一般的な投資戦略の運用資産残高が増加した結果によります。今後も下落の傾向が続いた場合、成功報酬の付帯比率がさらに低下する可能性があります。

<後略>

(訂正後)

<前略>

また、当社グループでは、可能な限り多くの投資顧問契約及び投資信託委託契約に成功報酬を付帯することで収益性の向上を図っておりますが、運用資産残高全体に占める成功報酬の付帯比率は、平成15年3月期の72.4%から平成16年3月期58.5%、平成17年3月期55.0%に下落しております。これは、主として株式一般投資戦略、中小型投資戦略などの成功報酬を付帯しない報酬体系が一般的な投資戦略の運用資産残高が増加した結果によります。今後も下落の傾向が続いた場合、成功報酬の付帯比率がさらに低下する可能性があります。

<後略>

## 7【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 当連結会計年度の経営成績の分析

(訂正前)

<前略>

当社では過去数年間、成功報酬の実現機会を高め、その計上の安定性を向上させるべく計算基準日の分散化を図っております。依然として外国籍ファンドを中心に12月末の計算基準日の比率は高いものの、各四半期への分散化が進んでおり、年間どの時期で運用実績をあげても、その結果を成功報酬に結び付けられる状況ができつつあります。また、現時点ではすべての投資戦略が成功報酬を付帯したファンド・契約を有しており、成功報酬付の運用資産残高は全体の約57.5%、前期末比40%増加の4,913億円となっております。この様に成功報酬付の運用資産残高が増加している事は、同じ成功報酬を獲得するために必要とされる運用パフォーマンスが小さくて良い事を意味します。

<後略>

(訂正後)

<前略>

当社では過去数年間、成功報酬の実現機会を高め、その計上の安定性を向上させるべく計算基準日の分散化を図っております。依然として外国籍ファンドを中心に12月末の計算基準日の比率は高いものの、各四半期への分散化が進んでおり、年間どの時期で運用実績をあげても、その結果を成功報酬に結び付けられる状況ができつつあります。また、現時点ではすべての投資戦略が成功報酬を付帯したファンド・契約を有しており、成功報酬付の運用資産残高は全体の約55.0%、前期末比33%増加の4,694億円となっております。この様に成功報酬付の運用資産残高が増加している事は、同じ成功報酬を獲得するために必要とされる運用パフォーマンスが小さくて良い事を意味します。

<後略>